

大分県林業試験場の概要

大分県林業試験場

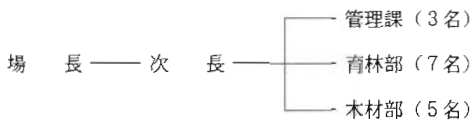
〒877-13 日田市大字有田字佐寺原

TEL 0973-23-2146 FAX 0973-23-6769

1 沿革・概要

- 昭和23(1948)年5月 日田市大字田島字倉ヶ迫に場舎竣工
- 昭和25(1950)年3月 庶務・造林・利用加工の3係設置
- 昭和45(1970)年12月 日田市大字有田字佐寺原に新設試験場起工
- 昭和46(1971)年5月 組織改正。指導調査室の新設。研究部制を設け、育林科、特林科、保健科を置く
- 昭和46(1971)年10月 本館建設完成
- 昭和47(1972)年3月 附属建物完成、移転
- 昭和56(1981)年4月 研究部を廃止し、育林部・林産部を設置。育林部には経営科・育林科・保護科を置き、林産部には特用林産科、木材加工科を置いた
- 平成元(1989)年4月 科制を廃止し、育林部・木材部の二部制とした。きのこ部門はきのこ研究指導センターへ移管
- 平成6(1994)年3月 木材強度試験棟完成
- 平成8(1996)年2月 木材高次加工棟完成

2 組織



3 人員構成

管理課	事務吏員	2名
	技術吏員	2名(場長、次長)
	技師	1名
育林部	技術吏員	5名
	業務技師	2名

木材部	技術吏員	5名
	非常勤嘱託職員	1名
		計 18名

4 研究課題と研究内容及び研究者名

1) 育林部

育林部の課題は広葉樹の育種育林に関するもの、森林の環境保全に関するもの、その他林業機械や森林病害虫に関するものなど、12課題について実施している。

① 広葉樹の育種及び造林に関する研究

(H8-12年 担当 高宮 立身)

ケヤキ、ヤマザクラ等の広葉樹について、優良個体を選抜し、種苗増殖技術を究明するとともに、林分造成法の向上を図るための技術を開発している。

② 有用林木遺伝資源植物のバイオテクノロジーによる保存と増殖技術の開発

(H8-12年 担当 佐々木義則)

ケヤキ等の有用遺伝資源植物について、組織培養、遺伝子の保存、組織培養苗の増殖技術の開発など新しい分野の研究に着手している。

③ ユリノキの育林と利用についての調査研究

(H8-10年 担当 諫本 信義)

産業科学技術センター日田産業工芸試験所との共同研究である。産業苗木の養成、育林方法、材の性質、利用方法の研究を行っている。その他、以下の課題について研究している。

④ 機械化作業システムに適合した森林施業法の開発

(H9-13年 担当 姫野 光雄)

⑤ マダケ林の施業技術の高度化に関する研究

(H7-9年 担当 室 雅道)

⑥ スギ、ヒノキの新品種の育成に関する研究

(H5-9年 担当 佐々木義則)

⑦ ヒノキ漏脂病の発生に関する要因の解明と被害回避法の開発に関する調査

(H5-9年 担当 室 雅道)

⑧ 酸性雨等森林被害モニタリング事業

(H5-11年 担当 高宮 立身)

- ⑨森林の環境保全に関する機能評価の解明
(H5-9年 担当 諫本 信義)
- ⑩森林環境と酸性雨の影響評価
(H7-11年 担当 諫本 信義)
- ⑪スギ樹皮の利用による包埋種子(シードボール)の
開発 (H7-9年 担当 諫本 信義)
- ⑫樹木育成保護装置による新造林技術の開発
(H9-11年 担当 高宮 立身)

2) 木材部

木材部の研究課題は、県産スギ材の需要拡大に資するための課題、及び広葉樹材の利用に関する課題など、併せて6課題となっている。

木材高次加工研究施設の完成により、スギの構造用集成材の開発試験を開始した。また、多様な森づくりの推進のため、ユリノキ材の利用開発についての研究を実施している。

以下各課題について概略する。

- ①スギ材の効率的乾燥法に関する研究
(H9-13年 担当 三ヶ田雅敏)
蒸気式乾燥機によりスギ柱材の乾燥試験を行い、材質に応じた乾燥スケジュールを解明するとともに、太陽熱など自然エネルギーと蒸気式乾燥を組

合わせ、省エネ乾燥技術の確立を図る。

- ②県産スギ材による構造用集成材の開発
(H8-12年 担当 城井 秀幸, 河野 貴可)
構造用集成材用の原木及びびらミナ(ひき板)の性能評価、集成材(正角材)の試作と性能評価を行う。
- ③スギ丸太燻煙加熱処理技術に関する研究
(H9-13年 担当 三ヶ田雅敏)
スギ丸太(ヤブクグリ)の燻煙加熱処理試験を行い、曲がり、割れ、収縮、含水率等の変化を調査する。
- ④県産スギ精英樹の材質特性の評価
(H9-13年 担当 豆田 俊治)
大分県産スギ精英樹クローンの各種材質特性を明らかにする。
- ⑤県産材の面材利用開発に関する研究
(H9-13年 担当 河野 貴可)
クヌギ材の集成面材の試作及びクヌギ、スギ材の複合面材の試作を行う。
- ⑥ユリノキの育林とその利用についての調査研究
(H8-10年 担当 豆田 俊治)
輸入材の利用状況と国産材の材質特性の比較や製材乾燥試験を行う。
(文責 諫本 信義)